

韓国環境部プレスリリース 2020年2月13日付

江原道の野生いのししから ASF ウイルス検出（野生いのしし 184-185 例目）

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1310490&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は江原道（カンウォンド）華川郡（ファチョンゴン）看東面（カンドンミョン）で発見された野生いのししの死体 2 個体から ASF ウイルスが検出されたと 2 月 13 日明らかにした。

2 月 11 日、山を捜索中の環境部捜索チームが死体を発見した。発見地点は 2 月 9 日に感染個体が発見された場所(174 例目)から約 900 メートル離れた地点だった。

華川郡は ASF 標準行動指針により試料採取後、現場消毒と共に野生いのししの死体を処理した。

国立環境科学院は 2 月 12 日死体で ASF ウイルスを確診と結果を関係機関に通知した。これで華川郡では 59 件の野生いのしし ASF 陽性事例となり、全国的には 185 件になった。

農食品部は野生いのししで ASF が確認された後、直ちに京畿道及び江原道の全養豚農家(約 1,200 戸)に文字メッセージを送信して発生事実を知らせ、農場でフェンスなど防疫施設を点検し、農場内外の消毒、手洗い、長靴の履き替えなど、基本防疫規則を遵守するように要請した。

華川市には陽性個体発見地点から半径 10km 内の農家(3 戸)に対して移動制限を持続*、農場予察、臨床観察、精密検査、農家進入路・周辺道路・近隣河川などに対する集中消毒など防疫措置を実施するようにした。

* 10km 内養豚農家 3 戸(約 3 千頭飼育)位置して、該当農場は 2020 年 2 月 9 日華川（ファチョン）、看東面（カンドンミョン）174 例目 ASF 発生により、すでに移動制限、精密検査(2 月 10 日)、消毒など防疫管理中

また、農食品部は、京畿道・江原道南部 22 戸の市郡養豚農家(約 968 戸)に対し電話予察を強化(従来月 1 回→週 1 回)と、消毒車両を導入して農場進入路、周辺道路を毎日消毒するなど防疫管理を強化する。

特に、境界地域と隣接した 5 個の市郡(南楊州・加平・春川・洪川・襄陽)の養豚農家(約 57 戸)に対しては、中央(農食品部・検疫本部)点検班(5 チーム 10 人)を派遣し、2 月 13 日から 2 月 14 日まで農場フェンス、消毒施設など防疫施設設置、農場消毒実施の有無などを緊急点検する計画である。

国立環境科学院は、「今回の ASF 陽性個体は、最近感染個体が発見された地点と近接した距離で発見されている。他にも感染個体が存在するか確認するため、周辺捜索を強化し、早急に野生いのししの移動を遮断できるフェンス*を設置する予定」と述べた。

* 感染した野生いのしし発見地点に 1、2 次フェンスおよび 3 段階広域フェンス(春川～昭陽江～麟蹄間を連結)

以上